



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む  
にほんじん がいこくじん なかよ たす あ 日本人と外国人が、仲良く助け合っ  
たの せいかつ ねが かつどう 楽しく生活していくことを願って、活動をつ  
つづ 續けています。

2016/2月号

# くろする~ど

## 会報誌

### げっかん がつ ~サロン月間カレンダー~2月~

#### ■サロンでお茶会

- 2月5日(金) 午前10時30分~12時  
「絵手紙教室」(参加費100円~200円)
- 2月12日(金) 午前10時30分~12時  
「生け花教室」(花代500円) 要予約
- 2月19日(金) 午前10時30分~12時  
「ダンス教室」
- 2月26日(金) 午前10時~12時  
「消しゴムはんこ教室」要予約  
(参加費 200円)

- ★対象はサロン学習者またはボランティアの方。
- ★申込みはサロン事務局まで。

#### ■ボランティア研修会

- 2月17日(水) 午前10時~12時
- 場 所：3F会議室
- テーマ：スイスイは形容詞？副詞？ー「知って  
いるようで知らない『副詞』の世界」

#### ■日本語教授法研修Ⅱ

- 2月18日(木) ~ 3月24日(木) 全6回
- 時間：午前10時30分~12時30分
- 場 所：3F学習室
- 対象：教授法研修初級Iを終了の方
- 申込みはサロン事務局まで。  
(詳細は掲示をご覧ください)

### 「日本語学習発表会に参加しよう！」

今年も「日本語学習発表会」が開かれます。昨年  
は6か国15名の学習者の方々が参加しました。週5  
回ある日本語学習クラスで学んだ日本語を使い、  
100人を超えるたくさんの人たちの前でみなさん、  
精一杯のスピーチをしました。その内容は、自分の国  
の文化、日本に来て知ったこと、驚いたこと、学校  
での部活、あるいは楽しかった旅行についてなど、  
いろいろな話題にわたりました。

「日本語学習発表会」は、日本語学習クラスで  
いつも勉強していることを発表する場です。「話せ  
るかなあ？」などと心配せず、ボランティアの先生に  
助けてもらいながら、自分の今の力をためてみて  
ください。学習者の皆さんの参加をぜひ、お待ちし  
ています！

- ◆日時:3月12日(土)13:00~16:00
- ◆会場:府中国際交流サロンの隣の会議室  
(日本語学習と同じ場所)
- ◆発表時間:4分まで。テーマは自由です。
- ◆応募締め切り:2月5日(金)

詳しいことは、応募用紙もいっしょに付いている  
チラシを読んでください。サロン事務局に置いてあ  
ります。(編集部)



# 世界の文化

私のお国自慢 ~8~

## 「たのしいキューバの街」

マイレン・ボレロ・ペレア(キューバ)

私のふるさとにはキューバのハバナ(地図参照)です。私が好きなハバナの紹介とキューバ人の生活について少しお話しします。

キューバではマキナと呼ばれるタクシーでハバナの代表的な場所ベダードとハバナビエハによく行きました。ベダードはハバナの中では近代的な雰囲気の場所で、たくさんの遊び場や新しいお店があります。キューバ人がベダードに行ったら絶対にいく場所を3つ紹介します。「ヤラ」というハバナの有名な映画館、その前にある「コッペリア」という広いアイス屋さん、そこから歩いて10分位のところにある「マレコン」という海岸沿いの道路です。

キューバの映画館はとても安く20円ぐらいです。とくにラテンアメリカ映画のフェスティバルの時には盛り上がります。

「コッペリア」のアイスはみんな大好きなので、お店に入るために500メートルくらい行列があるとときもあります。1時間並んだら皆さんはどのくらいのアイスを食べると思いますか。キューバ人は最低でもアイスの玉を5個食べます。20個食べる人もいます。

「マレコン」には一日中たくさんの人が友達や家族や恋人といます。釣りをしている人、ギターを弾く人、歌を唄う人や食べ物を買っている人、いろんな人が集まります。アイスを食べたり、映画を見たり、そして海を見ながら話をしたり、私はそのルートを通るのが大好きです。

ハバナビエハに行く景色が全然変わります。ここは旧市街地で、歴史的な建物や広場がたくさんあります。ですから、過去と現在が混ざっているような感じがします。ハバナビエハの一番にぎやかなところは、オビスポという通りです。一日中おおぜいの人歩いています。通りのレストランやカフェテリアでは、バンドがキューバの伝統的な音楽を演奏して、ダンサーも踊っています。キューバ音楽とダンスは分けられません。そういうお店の前を通るキューバ人は、ときどき音楽のリズムでちょっとダンスをしているように体を動かします。大勢の人の声やいろいろなキューバのリズムや売り手の歌などを聞きながらこの道を通ります。

毎日12時から、サンコという竹馬のような背の高い靴をはいている人たちが、コンガというリズムで踊ります。私はハバナビエハに行くといつもこういう雰囲気を楽しまました。



ハバナビエハ



オビスポ通り



マレコン河岸通り



## 「日本への恋しさについて」第2回

リドザ・メガリナ・ワヒド (インドネシア)

始めはずっとじゃないだろうと思ひ、近いうちにまた日本に帰ってこれるでしょう。そう思いました。しかし、主人の固い意志を感じて、私も応援しなくちゃ〜！と決めました。と言ってもそんな簡単な事ではありません。日本にいた時ずっと主人と二人で暮らしていた私は、国に帰ると離れ離れになりました。なぜなら、主人は無電化村や無開発地帯や島々への電気を届けるためにあちこち飛び回っていました。彼が開発した風力発電技術を持って、東部インドネシアにある SUMBA 島でインドネシア独立から 68 年間も電気がない村で、一所懸命に必要な数の小型風車・太陽光発電システムを設置して、村人に灯りを提供する仕事をしています。また、JAWA 島の南海岸の村に小さな小屋をいくつか建てて、無電化村で設置した風車システムを設置し、若者たちのための研究センターを設立しました。そこで色々な大学から来た学生たちに対し、主人が日本で学んできた風力発電機技術とその周辺技術を教えて、彼らが今後実際にまだ残っている無電化村などの問題を解決できるため、育てていくことを決めました。

もちろんその暮らしはだいぶ日本と違って、主人は私のことが心配で、私が育った町である SUMATRA 島の PADANG 市に住むように言われました。もちろんそこは私の故郷で両親や家族がいます。しかし主人は「国への約束」と言ひ、別に契約などないのに、遠く離れた彼が作った研究サイトにて若者の技術と精神を育てる仕事を選びました。別にどこかの会社や政府に働く訳でもなく、友人たちと一緒に再生可能エネルギー技術研究開発の起業活動を始めました。その結果私たちはほとんど会えなくて、1か月に1回、それもたった数日だけ会うことになっています。しかし、これは彼の願った夢であり、私も理解しなければなりません。難しくても、

(注：イチャさんことリドザ・メガリナ・ワヒドさんは 2007年～2012年の間に二度に分けてサロンに在籍し、通算3年間毎週3～4回日本語を学習したとても熱心な生徒でした。現在は母国インドネシアの

大学で日本文学を学ぶかたわら、日本語能力試験N1に挑戦しています。頑張れ、イチャさん！)

## 投◇稿

### 「罰があたる話」

～シーラカンスのたわごと ⑩～

今から13年前、サロンで先生を始めて最初に受け持った中国人学習者S君からこんな話を聞いた。「先生、日本のスーパーでは夜8時を過ぎるとお寿司や惣菜が半額になるのを知っていますか？ 私たちが外国人は8時過ぎに買い物に行き、それから夕食です。」世間知らずのシーラおじさんはビックリしたが、更に驚いたのは、「半額にしても売れ残ったものは、お店の裏に捨てるんです。それをホームレスの人たちが拾って食べるんです。」「スーパーやコンビニ、食品工場ではまだ食べられる食品が毎日山ほど捨てられていますよ。」

ほんまかいな？と半信半疑だったが、先日の新聞に「日本では企業や家庭からまだ食べられる食品が大量に捨てられる。年間に680万トン。日本のコメ収穫量の8割に相当する。」という記事を読んで、ケチなシーラおじさんは腰を抜かしそうになった。日本の全農家が汗水たらして作るお米の、なんと8割に相当する量の食べ物が毎年捨てられている。食糧自給率40%しかない日本で、ですよ。

一方、世界では一年間に1500万人が餓死し、8億人が飢えに苦しんでいる。日本でも先日「おにぎりが食べたい」と書き残した老人が餓死したり、給食がなくなる夏休みには痩せる子供たちが沢山いるというのに…。

なんという罰あたりな日本人め…と悲憤慷慨していたら、少し明るいニュースに出会った。同じような問題意識を持ち、シーラより行動力のある人たちが立ち上がり、「フードバンク」という活動の全国組織が発足するらしい。

経済的に困窮するひとり親家庭の子どもやホー

ムレスに余った食料を届けるNPO法人の集まりである。外装などの問題で販売できない食品を企業から無料で提供してもらい、困窮家庭や障害者、児童擁護施設などに届ける。政府も重い腰をあげて活動支援に乗り出すらしい。

ご承知のように、日本の食糧自給率はわずか40%。かつての農業王国日本が…である。今後、世界人口の爆発とともに世界中で食糧の争奪戦が起き、日本の食糧輸入はますます厳しくなる。食料品の大切さはどんどん高まってくる。今欧米や日本など先進国が享受している豊かな生活を、世界中の人たちが要求するとしたら、地球はあと1個半余分に要る、と言われている。

既にフランスでは今年大手スーパーに売れ残った食料品の廃棄を禁ずる法律ができた。まだ食べられるものは慈善団体に寄付することも義務づけられた。スペインでは、家庭、レストランで食べきれなかった食品や料理を必要な人々とシェアする「連帯冷蔵庫」を設置している町があるそうだ。

ぜいたくに慣れた日本人よ、食べ物を粗末に扱っていると今に「罰があたる」ぞ！

「えっ！、えらそうなことを言う前に、お前の家の食べ残しをなんとかしろ？」 ご、ごもつとも…

(篠塚)

## 「コミュニケーション手段としての『ことば』について考える」

### —ドイツからフランス駆け足旅行記—

金曜夜ボランティア 金澤利典

昨年11月11日から18日までの8日間、ドイツ、スイス、フランスの3か国をバスと鉄道を乗り継ぎ、駆け足で旅行してきました。今、ヨーロッパ諸国は中東およびアフリカ諸国からの移民・難民問題で揺れています。14日にはパリでテロ事件も発生しました。こうした問題を直接肌で体験しながら考えたことを、「ことば」の問題に限って書いてみたいと思います。

旅行中一番印象に残ったのは、どこの国でも外国人どうしの会話は英語でおこなっていたことです。40年前に訪れたフランスでは、会話ブックを見ながら、片言のフランス語で話した経験のある私ですが、今回はそのフランスでも初めから英語で話しかけられました。ドイツでもレストランから買い物まで英語で話し、ドイツ語を少し勉強していったのに使う機会はありませんでした。

ドイツに留学中の友人の娘さんに聞いた話では、拡大EUになって加盟国間の人の移動が自由になったため、いろいろな国の人たちが同じ職場で働くようになり、共通語の英語でコミュニケーションをとることが多くなったそうです。たしかにバスの運転手さんはチェコ人で、食堂の店員さんはハンガリー人でした。

フランスでテロの発生した14日はスイスにいましたが、国境封鎖というニュースにもかかわらず鉄道はパリまで運行しているというので、パリに向かいました。情報を集めるために旅行会社のパリ支店に問い合わせると、パリの日本人ツアーは全てキャンセルで日本人観光客にはホテル待機をすすめているとのことでした。パリ滞在の3日間、観光名所はルーブル美術館をはじめみんな閉館しており、しかたないので市内をブラブラ散策してみました。街では警察官や軍隊が要所を警備していましたが、人出は多く、かなりにぎやかです。パリに住んでいるという日本人に聞いてみると、警備がきびしい分だけスリや置き引き恐喝などの犯罪がなく、いつもより安心だと冗談を言っていました。移民、難民問題についてたずねると、画家志望の人たちが集まるので有名なモンマルトルの丘などは移民が多く住んでいて、昼間はよくても夜は危なくて歩けないとのことでした。

さて、本題の「ことば」についてですが、今回の旅行で感じたのは、都市における住民の多国籍化が進むと、自国のことばを覚えてもらうというレベルでは対応しきれないということでした。例えば、EU諸国間は国境を越えた移動が自由なので、ギリシャナンバーのトラックが今日はドイツを走り、次の日はフランスにいるという場合、いったいギリシャの運転手は何か国語を使わなければならないのか。また、ドイツやフランスに住んでいても、片言のドイツ語やフランス語しか話せない外国人かもしれません。これが現実なのです。結局、たくさんの国の人たちが同時

に意思疎通しあうためには一つの共通言語を使う方が早いといえます。

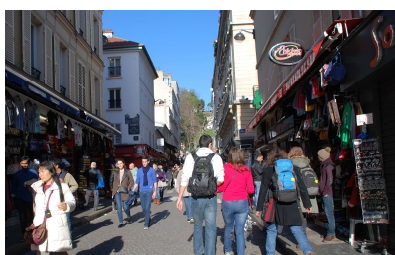
今、ドイツやフランスは中東からの難民を数十万人規模で受け入れようとしています。日本はあいかわらず難民の受け入れに消極的です。観光客としての外国人の訪日は歓迎しても、日本への移住や就労にはいい顔をしません。私たち日本語ボランティアは、圧倒的に少ない在日の外国人を相手に、生活していくための日本語を覚えるお手伝いをしていますが、もし外国人の数があと数十万人増えたらともに対応できません。

もちろん世界には英語の通じない国や地域はたくさんあるし、私自身もけっして英語万能論者ではなく、幼児への英語教育にはむしろ反対の立場です。けれども、日本語を話せなければ日本で暮らせないという状態が良いとも思えません。ドイツ紙ヴェルトは12月27日、同国へ流入する難民急増を受け、難民の子どもらにドイツ語を教えるため、これまでに国内で教師8500人が追加雇用されたと報じました。では日本ではどうしたらいいのか。東京が国際都市をめざすというのなら、もうそろそろ本気で考えなくてはいけない時期に来ているのではないのでしょうか。



パリの人影まばらな  
シャンゼリゼ大通り

ドイツのザンクトガレン  
の露店風景



パリ18区(テロ発生場所)  
モンマルトル周辺の街頭  
風景

## 一学習者の間違いやすい『助詞』 を考えてみましょう！

けんしゅうぶかい かよう ゆみこ  
研修部会 萱生由美子

1月20日(水)の研修会は、柏崎雅世先生のフォローアップ講座で参加者は23名でした。

まず、「みんなの日本語」の1課から25課までに出てくる『助詞』を取り上げ、問答形式のワークシートを使いながらその正しい機能を選び、なぜそれが正しいか、誤答はなぜ間違いなのかを考えてみました。

途中、7課までに出てきた『助詞』を整理する問題で、助詞「で」の用法(①動作の場所 ②道具 ③言語 ④交通手段)や、助詞「に」の用法(①時間 ②対象を表す[私→他人] ③動作を表す[他人→私])を使って例文を作り、皆さんに発表してもらいました。何回か作っているうちに、参加した方達も例文作りにだんだん慣れてきたようです。

今回は格助詞(が、を、に、で、へ、と、から、より、まで)の用法と例文を先生のハンドアウトを中心に確認しました。

また間違いやすい、対象の「を」と「が」、起点の「を」と「から」、「に」と「で」の用法の違い(存在と場所)、「へ」と「に」では本来の基本は、「へ」は移動の方向であり、「に」は帰着点であること、などを例文で比べてみました。

格助詞の指導法として、意味・用法を理解するのは教師自身のためであり、学習者には典型的な例文を複数挙げて教えること、そして、発話練習の時に強調しすぎず自然な発話を心掛けることが大切、と先生もまとめていらっしやいます。(詳細は研修会記録をご覧ください。)



# 新ボラさん こんにちわ!

## 「日本を紹介する楽しみ」

水曜午後ボランティア 塩飽理恵子

「広報ふちゅう」のページをペラペラめくりながら、目に留まったのは国際交流サロン日本語ボランティア研修の記事。それが、いろいろな国から来た学習者さんと出会うきっかけになりました。

学習者さんと同じく、私も海外で生活をした経験があります。日本国内で引っ越しなど一度もしたことがない私が初めて家を出たのが海外!かなりのカルチャーショックでした。

でもそんな中で生活を楽しめたのは、その国で出会った人に助けてもらったおかげだといつも感謝しています。学習者さんにとって、いつか私がそんな人になれたらいいなあと思っています。

やさしい日本語に置き換えたり、違いを説明したり、難しいことも多いのですが、一緒に日本語や日本文化の持つ面白さを勉強するのはとても楽しいです。まだまだ新米です。まずは私自身が日本をもっとよく知らなくてはと思う日々です。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

(絵手紙)



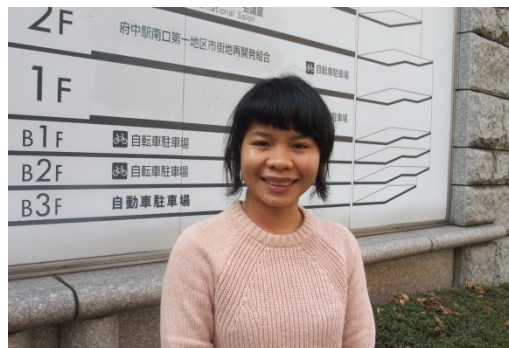
チャミー(ベトナム)



デツリー(フィリピン)

# 皆さんよろしく◇学習者紹介

ドー・スオン・フウン・トウイさん(ベトナム)



## 「日本語での会話はむずかしい・・・」

2015年8月にベトナムの南部ホーチミンの南に位置するアン・ザン県から東京農工大学に留学するために来日しました。

「経済に関する農業の問題」をテーマに修士課程1年生として勉強しています。ベトナムではCan Tho 大学を卒業し、アン・ザン県立の農場で仕事をしていました。

将来の夢は政府機関で働きたいし、いずれ、自分で作った農作物を自分のお店で売りたいとおっしゃっているように、農業と経済を一体として考えています。

趣味はお料理を作ることで、ベトナム料理ではフォーが好きな食べ物ですが、日本では天ぷらが好きで、スイーツのケーキが大好きだそうです。

四人姉妹の末っ子だけに、自分の性格はフレンドリーで正直なところだとして自分を分析しています。

好きな日本語は呼びかけとしての「すみません・・・」です。

大学も楽しいし、サロンも楽しいとおっしゃる明るいかたですので、日本でもたくさんお友達が出来ると思います。日本語の会話もすぐに上達することでしょう。

(堤林)

# 日本語おちぼひろい ~32~

## 「英語起源日本語説!？」

きんようよる わだ やすひろ  
金曜夜ボランティア 和田泰弘

この正月、金太郎飴のようなテレビ番組に食傷し、ユーチューブの面白映像を楽しみました。マイケル・ジャクソンが軽快なバックステップを披露する伝説的ビデオ・クリップ『スリラー』に、なんとクレージー・キャッツの植木等が歌う『スーダラ節』を被せた映像があるとのこと、さっそくアクセスしてみると、M・ジャクソンの軽快な千鳥足(?)が「ちよいと一杯のつもりで呑んで…」の歌にぴったりハマッていたのではないかと、その奇想天外なコラボに思わず噴出してしまいました。

「洋もの」が「和もの」にぴったり嵌まる面白さは、言葉にもあります。小学校5年でローマ字を習い、自分の名前を書けるようになったころ、はじめての英単語“boy”に出会いました。“ボーイ”と発音し、意味は「少年」だと先生に教わりましたが、「少年だからボーヤ(坊や)なんだろうか。でもボーヤだったら最後にaが入るのに…」と訝しい気持ちで独りごちた思い出があります。しばらくしてから、英語の発音はローマ字発音(ヘボン式・訓令式)とはまったく別ものなのだ、と悟ったのです。中学に入ると、“kennel”(犬小屋)は「犬寝る」だから「ケンネル」、 “dictionary”は「字引く書なり」、と語呂合わせの面白さも覚えました。“name”は「名めー」だから「名前」なんだとも。ちなみに、ドイツ語の発音は日本語のローマ字発音に近く、「名前」は英語の綴りと同じ“Name”で、“ナーメ”と発音します。

なんだかややこしくなりましたが、こんな英語と日本語の発音の、偶然の類似性を必然的経緯だとする学説(?)を紹介する小説があります。『永遠のジャック&ベティ』や『蕎麦ときしめん』などの著者、清水義範の『英語起源日本語説』です。

その珍・起源説によると、“number”は“なんぼ(nambo)”、“kill”は“斬る(kiru)”、“juice”は“汁(jyu)”、“dull”は“だるい(darui)”、“guess”

は“下衆(gesu)の勘ぐり”から派生したというのですが…。パロディや模倣をエッセンスとするパスティシュ小説の第一人者のこの小説、いや論文、言葉あそびを楽しめる抱腹絶倒の一篇です。

ところで、イタリア語の“cucina”(台所・料理)、これは“食っちーな”(kucina)が語源!?

## 私の☆つぶやき

～サロン・ツイッター・コーナー～

### 「童謡『青い目の人形』」

きんようごご こいわいまさと  
金曜午後ボランティア 小岩井雅人

私は11月15日に府中市生涯学習センター主催のロビーコンサートで童謡「青い目の人形」を歌いました。「青い目の人形」とはアメリカ人形のことです。第二次世界大戦よりもっと前にアメリカ合衆国が友好のしるしとして日本に送ってくれた人形です。その歌の中に「私は言葉がわからない。迷子になったらなんとしよう…やさしい日本の嬢ちゃんよ、仲良く遊んでやってくれ」という文句があります。アメリカ人形が日本に送られても一人ぼっち、ことばもわからなくてホームシックになっている気持ちを言ったものですね。

歌ったあと、ぽっと思いついたように、私が府中国際交流サロンで日本語を教えていること、日本人より漢字を知っている生徒さんみれば「あいうえお」もわからない生徒さんが同じ場所で一生懸命日本語を学んでいることをお話しました。もし道に迷っている外国人がいましたら親切に教えてあげてくださいねと思わず観客に向かってお願いしました。歌っている最中でも府中国際交流サロンのことが心の片隅にあったのです。観客の中には日本語講座と一緒に学んだ仲間もいて嬉しいやら恥ずかしいやら、楽しいコンサートでした。



# みんなの広場

## 「府中の交流会」

よつ やしやうがっこうさんねんせい いしづか しづき  
四谷小学校三年生 石塚 雫

ぼくは、府中の交流会に参加しました。とくに楽しかったことは、2つあります。1つは外国人と話しができたこと、もう1つは、作品展で絵を見ることができたことです。

外国人と話すことが楽しかった理由は、英語が通じたからです。たとえば、フィリピン人の中学生の女の子と、しゅみについて話し合いました。

作品展で絵を見ることが楽しかったのは、花やリンゴや虫の絵を見れたからです。

これからも、いろいろな国の人といろいろなことを話したいです。

(編集部より：石塚くんは、府中市民枠に応募して昨年12月の「サロンの集い」にお母さんと参加し、その時の楽しかった体験を寄稿してくれました。)



## 「留学生、アパートを借りる」

すいよう つじむらとし お  
水曜ボランティア 辻村俊雄

日本では何かにつけ保証人が要求されたりします。アパートを借りる場合、外国人については色々条件がありますが、最近では外国人専用の保証会社があります。

留学生がアパートを借りる事になり、契約が決まると云う時に保証会社から国内の緊急連絡先を要求され、私を連絡先にしたと連絡がありました。契約等は大学のTutorが同行しており問題は無さそうなので、私は法律的に責任の無い単なる連絡先なので引き受けました。

翌日だったか電話の着信履歴を見ると、知らない番号からの着信があり、念の為ネットで調べたところ保証会社の電話番号でした。その番号に電話すると緊急連絡先の確認でした。

留守録に設定してあったのにメッセージが無く、折り返すことが緊急連絡のチェックだったのか、その後保証会社の保証が決まり無事に契約が出来ました。

もし、電話しなかったら契約はどうなったのでしょうか？  
仕組みが良く解りませんが要注意です。



## ～編集後記～

先月の「絵手紙教室」では、持参した蠟梅の一枝を和紙はがきに描きました。

蠟梅は花びらが蠟細工のようで梅に似た花であることからの名とか、または蠟月(旧暦の12月)に咲く花であることからといいます。梅とは全く別種でクスノキ目ロウバイ科です。花の少ないこの季節に咲き、優しい香りを漂わせてくれる小さな黄花が、ひとり暮らしの老母に似ているように思え、絵手紙を送りました。優しい花木といっても、その種子には猛毒のストリキニーネが含まれていると知り、狼狽しました。が、ますます母に似ているような(汗)花言葉は「慈愛心」です。

早咲きの梅が咲きだした郷土の森。梅まつりは2月6日からの開催です。ただいま蠟梅も見ごろです。  
(進藤)

【編集】会報部会/ 安島、坂倉、篠塚、進藤、  
高柳、堤林、増田、和田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：salon@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

http://www.fuchukokusai.gr.jp

